

平成23年度事後評価結果(平成23年7月)

[研究開発課題名] 高度画像監視センサネットワーク技術の研究開発

[委託機関名] オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>本研究は、画像中の人物をトラッキングし、その行動認識から異常事象を検出する技術、および、ネットワーク監視により行動認識を高度化する技術を開発し、高度画像監視センサネットワーク技術の実現を図ろうとするものである。</p> <p>実フィールド画像およびエキストラによる画像を合わせ約1,300件の画像データベースにより各種の異常行動データの収集と実験が実施されたことは、本課題の中で最も重要な点であり、大きな進展が得られている。</p> <p>また、時空間Markov Random Fieldのズーミング・パンニング対応への拡張技術、人物監視のための顔認識技術とトラッキング技術、人物監視のための画像センサネットワーク技術等の性能検証が上記データベース等を利用し、おおむね目標性能(成功率)を達成している。さらに、性能改善が期待できる。</p> <p>計21件の特許出願があり成果の技術的優位性は高く、また、計20件の論文・学会発表から見て、パブリックリターンも適切に行われていると考えられる。</p> <p>以上のことを総合的に判断すると、概ね妥当な研究開発成果である。</p> <p>(事業化関係)</p> <p>受託者が従来から圧倒的な占有率を有している市場に対しての新たな製品開発・販売ビジネスモデルである。このモデルでは、需要者のニーズを的確に把握し、高度な画像処理技術を取り込んだ製品戦略の上で、優位な立場を活かしていくことが必要とされる。その中で、顧客への営業により、H23年度(研究開発終了から1年後)は約●●台、H24年度は約●●台の販売の見通しもあることから、受託者は総じて着実なビジネス戦略を展開していると推測される。</p> <p>さらに、国外への展開等を含め、ビジネス的に新たな分野に挑戦することを期待する。</p>

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。